

『原子力発電所の経年化調査団』参加要項

1. テー マ:『原子力発電所の経年化調査団』
2. 期 間:2013年4月14日(日)～4月21日(日) 8日間
3. 主 催:一般社団法人 日本技術者連盟(JEF)
4. 団 長:三島 嘉一郎 氏 株式会社原子力安全システム研究所 技術システム研究所長
京都大学 名誉教授 工学博士



■略歴

- 1946年 福岡県生まれ
- 1968年 京都大学理学部物理学科卒業
- 1970年 京都大学大学院理学研究科物理第2専攻修士課程修了
- 1973年 京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻博士課程単位取得退学
- 1973年 京都大学原子炉実験所 助手
- 1985年 京都大学原子炉実験所 助教授
- 1996年 京都大学原子炉実験所 教授
- 2009年 京都大学 名誉教授
- 2009年 株式会社原子力安全システム研究所 技術システム研究所長

5. 趣 旨:

関西電力の大飯原子力発電所3号機が2012年7月5日午前7時に発電を再開いたしました。2011年3月の福島第一原子力発電所の事故後、定期検査で運転を停止していた原子力発電所の再稼働としては全国で初めてとなりました。同機の運転再開によって、「原子力ゼロ」の状態から脱却できました。

欧州連合は、福島事故を受けストレステストを実施しました。一方、米国原子力規制委員会(NRC)は、米国ではストレステストの必要はないとの見解を示しました。日本技術者連盟はこうした状況に鑑み、欧米各国が福島事故をどのように捉え、どのような考えのもとに対策を実施しようとしているか把握し、日本の今後の参考に資することを目的として、欧州については第1次と第2次の2回に分けて、また米国にも調査団を派遣いたし、規制当局はもちろん電力会社、原子力発電所、プラントメーカー等、幅広い訪問先の関係者との意見交換を行い、多大な成果をおさめる事ができました。

1995年6月7日米国で発効された新しい規則は、老朽化メカニズムを明らかにするというこれまでの考えから、発電所に対する老朽化の影響を管理することに重点を移しましたが、これは、電力会社が広範な保守作業と検査活動を通じて、原子力発電所の運転を開始した時点からやっていることに他なりません。電力会社が認可を更新するためには、NRC に対し、更新期間にわたって老朽化による影響を適切に管理できるということを立証しなければなりません。この規則で初めて、認可取得者が最初の40年からさらに最長で20年までの運転認可を延長することを許可されました。そして、米原子力規制委員会(NRC)は2012年2月9日、1979年の TMI 事故以来、33年ぶりとなる原子力発電所の新設を許可しました。当面の最大の関心は運転認可(ライセンス)の更新(延長)であり、60年という運転期間をさらに80年まで伸ばすという計画がいよいよ具体化してきました。

そこで本連盟では、現在稼働中の原子力発電所および高経年化関連の研究機関の中より、いくつかを選び、その実態を調査するとともに、日米双方、関係者との意見交換を行うことを目的に本調査を実施したいと思えます。

6. 訪問先及び概要:

①US Department of Energy (DOE) : ワシントンDC

米エネルギー省 (DOE) が推進する原発高経年化研究プロジェクト、「軽水炉持続可能プログラム (LWRS Program)」の最高責任者の Mr. Richard Reister, Federal Project Director, 及び関係者との Meeting。

Mr. Richard Reister は、Idaho National Laboratory (アイダホ国立研究所) における、実証実験研究プロジェクトの総責任者でもある。

②Constellation Nuclear LLC (CENG) : メリーランド州ラスビー

CENG 本社及び CENG Calvert Cliffs Nuclear Power Plant

原発のロケーションは、ボルチモアの南に 160 マイルの所に位置しており、ワシントンDC から60マイル、1 時間半くらいの距離。所在地は、メリーランド州、Lusby 市。

Mr. Gary Pavis 他関係者との Meeting 及び原子力発電所視察。

③Exelon Generation Company, LLC : ペンシルバニア州ケネットスクエア

Nuclear の本部並びに本部に近い原子力発電所

本部、原発の所在地は、ペンシルバニア州、Kennett Square で、Lusby 市からも、Washington DCからも、2 時間半ほどの距離にある。

④Electric Power Research Institute (EPRI) : カリフォルニア州パロアルト

最高責任者の Mr. Wilmshurst, VP&Chief Nuclear Officer (CNO) を始めとした EPRI Nuclear Sector 関係者との Meeting。DOE と協力して LWRS プログラムを進めている。電気事業者の研究開発機関。

⑤Pacific Gas and Electric Company (PG&E) : カリフォルニア州アビラビーチ

Diablo Canyon Power Plant, unit1

Plant の責任者で、PG&E の Chief Nuclear Officer、Mr. Ed Halpin 他関係者との Meeting。

サンフランシスコから、原発までは、約250マイル、約4時間程の距離。

7. 【質問事項(大項目)】

- ①高経年管理の考え方、ポリシーと計画について
- ②高経年対策の課題と解決策について
- ③高経年に係るトラブルの実例、機器リプレースの予定と実績について
- ④運転認可更新申請時の課題や対応事項について
- ⑤福島第一事故からの反映項目と改善点の有無について

8. 募集人員: 15名 (最少催行人数10名)

9. 参加費: ¥980,000- (消費税込)

10. 通訳者: ベテラン適任者(日本語⇄英語)

11. 添乗員: 添乗員は全行程同行いたします。

12. ホテル: 一人部屋

13. 旅行主催: 万達旅運株式会社 ワンダートラベル

14. 総合事務局: 株式会社アジア技術移転機構

15. 申込方法: 添付申込書に必要事項記入の上、2013年4月1日(月)までにFAX(03-6229-1940)又は E-mail(info@jef-site.or.jp)にてお申込み下さい。申込み受付後、旅行主催である万達旅運株式会社 ワンダートラベル)より手続きに関するご連絡をさせていただきます。

16. 代金支払: 総合事務局 株式会社アジア技術移転機構より請求書をご送付申し上げます。

一般社団法人日本技術者連盟

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル 5F

Tel +81-3-6229-1946

Fax: +81-3-6229-1940

E-mail: idata@jef-site.or.jp

URL: <http://www.jef-site.or.jp>

URL: <http://www.jef-site.or.jp/npgef/index.html>

原子力発電所の経年化調査団

日 程 表 2013年4月14日(日)～4月21日(日) 8日間

日次	月・日・曜	都市名	距離	交通機関	現地時間	スケジュール	食事
1	4/14 (日)	東京(NRT)発 ワシントン(IAD)着		NH002	11:05 10:40	全日空直行便にてワシントンへ ワシントンDC泊	機内食 夕 ○
2	4/15 (月)	ワシントンDC滞在			10:00～	Department of Energy(DOE) 米エネルギー省(DOE)が推進する原発高経年化研究 プロジェクト、「軽水炉持続可能プログラム(LWRS Program)」の最高責任者のMr. Richard Reister,Federal Project Director,及び関係者とのMeeting (宿泊ホテル会議室にて) ワシントンDC泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
3	4/16 (火)	ワシントンDC発 ラスビー着 (メリーランド州) ラスビー発 ケネットスクエア着 (ペンシルバニア州)		専用バス	約2時間半 約2時間半	Constellation Nuclear LLC(CENG) 本社でのMeeting 後、Calvert Cliff原子力発電所 訪問 移動 ケネットスクエア泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
4	4/17 (水)	ケネットスクエア発 フィラデルフィア着 フィラデルフィア(PHL)発 サンフランシスコ(SFO)着		専用バス UA1669	終日 18:10 21:42	Exelon Generation Company, LLC Nuclear本部での Meeting後、近郊の同社の原子力発電所 訪問 移動 サンフランシスコ泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
5	4/18 (木)	サンフランシスコ発 パロアルト着 パロアルト発 アビラビーチ着		専用バス	終日	Electric Power Research Institute (EPRI) 訪問 アビラビーチ泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
6	4/19 (金)	アビラビーチ 発 サンフランシスコ着		専用バス	終日	Pacific Gas and Electric Company (PG&E)の Diablo Canyon Nuclear Power Plant 訪問(予定) サンフランシスコ泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
7	4/20 (土)	サンフランシスコ空港着 サンフランシスコ(SFO)発		専用バス NH007		朝食後空港へ 全日空にて帰国の途へ	朝 ○ 機内食
8	4/21 (日)	東京(NRT)着			15:25		

参加費に含まれるもの

- ・ 団体エコノミークラス航空運賃
- ・ 燃油特別付加運賃、空港税等
- ・ ホテル宿泊費(シングルルーム、税・サービス料含む)、一部食事代(日程記載分(機内食含む)、飲み物代は別)
- ・ 運營業務費(プログラム企画・運営費、団長、添乗員同行費)
- ・ 訪問先関係費、報告書作成費など事前研修費(資料費、会場費、講師費等)
- ・ 現地陸上交通費(空港・ホテル・視察先への専用バス代、ガイド代、列車代、チップ代等)
- ・ 通訳料

その他

- ・ 参加費は、2012年12月3日現在の運賃及び15名以上の参加に準拠したもので、ご出発前に参加人員に変更のあった時には、参加費用に変更される場合もありますので予めご了承ください。
- ・ 尚、申込み後はキャンセルチャージが発生致しますのでご注意ください。

参加費に含まれないもの

- ・ 渡航手続き諸費用(旅券取得費用、渡航手続き取扱い料金等)
- ・ 個人的経費(ホテルにおける電話代、クリーニング代、チップ等)
- ・ 集合時及び解散後の交通費
- ・ 超過手荷物料金(エコノミークラスは20kg以上)
- ・ 任意の海外旅行傷害保険
- ・ 障害・疾病に関する医療費

※ 注意 ※

ESTA(Electronic System for Travel Authorization)

米国入国にはESTA(電子渡航認証システム)に登録の必要があります。個人情報登録となりますので、参加者ご自身の申請登録をお願い致します。詳細は米国大使館のホームページから申請手順に従って登録出来ます。

取り消し料金

◎ 旅行上の諸費用(航空運賃、ホテル宿泊費、現地地上交通費等)

- ・ 実施日から起算し、さかのぼって30日前以降3日前まで : 費用の20%
- ・ 実施日から起算し、さかのぼって2日前以降1日前まで : 費用の50%
- ・ 実施日当日の取り消しは、全額申し受けます。

◎ 運營業務費、共通経費等は別途申し受けますので予めご了承ください。

一般社団法人日本技術者連盟 役員構成

会長	星野 克美	一般社団法人 日本プライバシー認証機構 会長 多摩大学 名誉教授
顧問	岡村 總吾 斎藤 信男 唐津 一	東京電機大学 名誉学長 前国際大学 理事長 工学博士 慶應義塾大学 名誉教授 工学博士 東海大学 名誉教授
理事	井戸田 勲 梶原 豊 浮舟 邦彦 森 和義 佐藤 正文	特定非営利活動法人 日本プライバシーコンサルタント協会 専務理事 高千穂大学 名誉教授 経営学博士 学校法人 滋慶学園 総長 Ph.D. 有限会社森テクノマネジメント 代表取締役 技術士(電気・電子部門、経営工学部門) 社団法人 日・タイ経済協力協会 顧問
監事	田代 空 寺村 康佑	特定非営利活動法人 日本プライバシープロフェッショナル協会 会長 元財団法人 日本人事行政研究所 理事長 株式会社サイバープロ 取締役

一般社団法人日本技術者連盟 委員会 委員構成

『国際原子力発電技術移転機構』委員会

委員長	佐々木宜彦	財団法人発電設備技術検査協会 理事長
顧問	野々内 隆 逢坂 國一 荒井 利治 宅間 正夫	財団法人経済産業調査会 理事長 社団法人日本電気技術者協会 会長 社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 副会長 社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 会長
委員	池本 一郎 小川 順子 金氏 顯 河原 暲 佐川 渉 関村 直人 津山 雅樹 富岡 義博 新田 隆司 藤井 靖彦 宮野 廣 諸葛 宗男	財団法人電力中央研究所 特別顧問 博士(エネルギー科学) 東京都市大学准教授/女性研究者支援室長 WIN-Japan 会長 社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 代表幹事 元社団法人日本原子力学会 会長 社団法人日本技術士会 理事 技術士 工学博士 東京大学大学院 工学系研究科 原子力国際専攻 教授 工学博士 社団法人日本電機工業会 原子力部長 電気事業連合会 原子力部長 日本原子力発電株式会社 前常務取締役 東京工業大学名誉教授 工学博士 特定非営利活動法人日本保全学会 特別顧問 法政大学 客員教授 東京大学公共政策大学院 特任教授

『アフリカ・中東技術者フォーラム』委員会

委員長	森 和義	一般社団法人 日本技術者連盟 理事 技術士(電気電子部門、経営工学部門)
委員	畑尾 成道 坂倉 省吾 島 直 佐藤 正文 小泉 英雄 鄭 紹良 井戸田 勲	技術士(建設部門、総合技術監理部門) 財団法人海外技術者研修協会 理事 工学博士 ICTコンサルタント・前GBDe消費者信頼委員会 筆頭シェパ 前 財団法人 海外技術者研修協会 理事 社団法人 日・タイ経済協力協会 専務理事 技術士(電気電子部門) 台湾總統府 科学技術諮問委員会 委員 国家実験研究院 ボードディレクター 無任所大使、工学博士・PE 一般社団法人 日本技術者連盟 専務理事
海外委員	AOTS各国同窓会メンバーよりご依頼中・順不同	
アジア地区	Himpunan Alumni AOTS Indonesia Persatuan Alumni AOTS Malaysia AOTS Vietnam Alumni Society (AVAS) ABK & AOTS Alumni Association (Thailand) Association of Iran's Japan Alumni (AIJA)	
中東地区	AOTS Alumni Society, Cameroun (AOTSA-CAMEROUN) AOTS Alumni Society, Egypt AOTS Alumni Association - Ghana AOTS Alumni Society of Tanzania The AOTS Alumni Society of South Africa	

総合事務局 : 株式会社アジア技術移転機構 (Asia Technology Transfer Organization, Inc. (ATTO))

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F TEL : 03-6229-1950 URL : <http://www.atto-asia.jp>

お申込みは別紙に必要事項をご記入の上、事務局までFAX(03-6229-1940)又は郵送でお送り下さい。

『原子力発電所の経年化調査団』参加申込書

一般社団法人 日本技術者連盟（JEF） 行
FAX 03-6229-1940

フリガナ			
会社名・団体名			
英文名			
所属名/役職名			
英文名			
フリガナ	生年月日	大正・昭和・平成・西暦	
参加者氏名		年	月 日
パスポート記載名 (ローマ字)	学位		
E-mail	携帯電話番号		
勤務先	〒	-	
	ご住所	電話番号	FAX番号
ご自宅	〒	-	
	ご住所	電話番号	
フリガナ			
担当責任者名	印		
所属名/役職名			
旅券(パスポート)について: 今回の旅行に必要な旅券をお持ちですか。(日本帰国日までの残存が必要)			
① はい	<input type="checkbox"/>	旅券番号:	有効期限: 西暦 年 月 日
② いいえ	<input type="checkbox"/>	現在申請中	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	自分で申請・取得する	<input type="checkbox"/>
喫煙の習慣	有・無	マイルージをお持ちの方は番号を記載して下さい	
通信欄 (ご質問・ご希望等お書き下さい)			

個人情報保護方針

旅行申込書にご記入いただく、氏名、年齢、生年月日、電話番号、メールアドレス、住所、勤務先等の情報は「個人情報」に該当しますので、企画主催・企画実施・取扱旅行社・総合事務局は以下に掲げる個人情報の取扱いに関する基本方針及び個人情報に関して適用される法令を遵守して、お客様に関する個人情報の適正な管理・利用と保護に万全を尽くします。

1. 個人情報保護利用の目的

お客様がお申し込みになられた運送、宿泊その他の旅行に関するサービス(以下「旅行サービス」といいます)を手配するために必要な範囲で情報を利用いたします。また、旅行サービス提供機関に対し、お客様の氏名、パスポート番号及び現地滞在先等をあらかじめ電子的方法等で送付することによって提供します。

2. 個人情報の開示・提供

下記の場合を除き、お客様からお預かりした個人情報を第三者に開示・提供いたしません。

ア. ご本人の同意がある場合

イ. 旅行サービス提供機関や販売店の手配業務委託先に、旅行サービス手配に必要な最小限度の情報を開示・提供する場合。

ウ. 法的な命令等により個人情報の開示・提供が求められた場合。

3. 個人情報に関するご質問、又はご意見は、総合事務局にてお受けいたします。

企画主催: 一般社団法人日本技術者連盟

<http://www.jef-site.or.jp/npegef/index.html> E-mail: info@jef-site.or.jp

総合事務局: 株式会社アジア技術移転機構

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F

TEL: 03-6229-1950 FAX: 03-6229-1940

<http://www.atto-asia.jp> E-mail: info@atto-asia.jp

旅行主催: 万達旅運株式会社 ワンダートラベル

TEL: 03-5157-2207 FAX: 03-5157-2208